

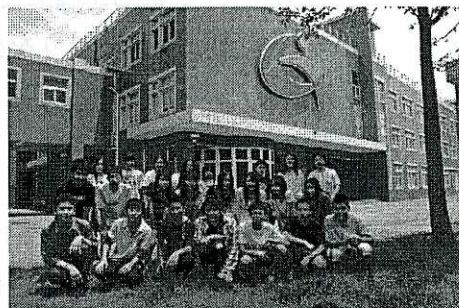
平成 24 年度 帰国教員報告会資料

派遣先：広州日本人学校
川口市立芝東中学校
教諭 加藤 智美

1. はじめに

帰国後は、余韻に浸る間もなく、引越→異動→新年度と、めまぐるしく毎日が過ぎていった。今回、広州での3年間と再び向き合う機会を頂いたことに感謝したい。

以下、広州日本人学校での教育活動や中国の教育事情についてまとめてみる。



2. 広州市と広州日本人学校の概要

広州は中国南部に位置し、北京・上海に次ぐ中国第3の都市と言われている。香港からは特急で約2時間の距離にある。「食は広州にあり」という言葉の通り、食べ物が大変おいしい。2010年にはアジア大会が広州で開かれ、それに伴い、地下鉄や道路が整備され、新しい建物も次々と建ち、街は大変活気にあふれている。トヨタやソニーなど、日本の企業が多く進出している。反日感情は薄く、日本人ということで怖い思い・嫌な思いをしたことは、3年間で1度もなかった。治安も良い。

広州日本人学校は、昭和57年に補習授業校として開校し、平成7年に日本人学校となり、平成15年に現校舎に移転した。平成23年5月1日当時の児童・生徒数は、小学部340名、中学部84名の計424名であった。教職員は事務スタッフを含めて34名である。

3. 広州日本人学校での国際理解教育

【小学部】：東風東路小学校との交流（年2回）

餃子作りや切り紙を教えてもらったり、よさこいソーランや折り紙を教えたりした。

【中学部】：私立華聯大学の日本語学科と年2回交流

日本・中国の行事や習慣について教え合ったり、ミニ運動会（大縄・綱引き）をしたりした。

*児童生徒たちは、中国語・英語・日本語・筆談・身振り手振りを駆使して交流していた。

*小学部・中学部共に週1時間、中国語を学習している。



4. 宿泊学習・校外学習

小5：香港（1泊2日） 小6：マカオ（2泊3日）

中1：中山（1泊2日） 中2：北京（3泊4日）

*小学部は校外学習も実施。市内の旧所名跡巡り、スーパーや工場の見学、植物園・動物園の見学など。



5. 中学部の進路指導

【1年】様々な職業について調べ、発表し合う。

